

「京都基本構想（仮称）」のあらすじ

京都を形づくってきたもの（第二章 京都のかたち）

- ・ まちに近接して存在する自然（三山、鴨川・桂川・琵琶湖疏水をはじめとする豊かな水の恵みなど）
- ・ 平安京の成立以来、政治、宗教、経済活動などさまざまな要素を織り成し、紡いできた長い歴史と、
その中で醸成されてきた文化
- ・ 自分の領分を弁えながら協働できる節度と、美意識や価値の継承に尽力してきた矜持にもとづく人間関係
- ・ 学術と文化・藝術に秀でた人々に加え、職人、市井の愛好家などの様々な日常の営みの蓄積（＝学藝の府）

京都を取り巻く課題（第三章 世界・日本・京都市のいまと未来への課題）

- ・ コミュニティや伝統産業、藝能などの担い手の減少と高齢化、全国的な少子化
→ 後継者の不足、伝承の危機、大学のまちとしての在り方の変容
- ・ 特定の観光地への訪問客の集中、マナーの差に由来するトラブルなど
→ 市民の日常生活やなりわいへの影響
- ・ テマキザサなど在来種が消失の危機に瀕する状況、自然との関わりの希薄化
→ 生活文化や神事の存続の危機

NEXT

これから、どのようなまちをめざしていくか

（第四章 わたしたち京都市民がめざすまち）

- ・ 本物（ほんまもん）を追究・創造し続ける
- ・ 世界の文化と交流し、新たな文化を創造し続ける
- ・ 「夢中」と「感動」に溢れ、学び続けられる
- ・ 平穏と静寂のもとで自己と世界と深く向き合える
- ・ 謙虚に自然と関わり続ける
- ・ 災害や感染症などの危機からしなやかに立ち直る
- ・ 多層的でゆるやかなつながりが続く
- ・ 支え合いの中で日々の生活を営める
- ・ ひとりひとりの個性や価値観を尊重し合える



ここがポイント



基本構想の主語は、「わたしたち京都市民」とし、市内に居住する京都市民の皆様はもちろん、京都市と関わりを有するすべての方々も広く「市民」として捉え、ともに京都市の現在と未来をつくっていきたいと考えています。

めざすまちの実現に向けて、この基本構想を“拠り所”として、今後の京都市の在り方、わたしたち京都市民の在り方を問い続けていただきたいという想いを込めています。